

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【馬宮西小学校】

⑥ 次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	基礎的な学力は定着しているが、個人差が大きい。一斉指導による授業だけでなく、個別最適な学びができる授業について先進校の取組を参考に改善していき、「できた、わかった」がより実感できる授業に改善していく。また、ドリルパークなどの蓄積したデータを有効的に活用し、個に応じた指導に役立てていきたい。
思考・判断・表現	グラフの作成などにおいて協働的な学びの場を設定し、自分の考えをしっかりとめさせ、伝え合い活動の充実を図ることで自己表現力を高める授業を実施していく。まだまだ視覚的・感覚的に問題を捉える傾向があり、出題された問題を正しく読み取ることができず、「何を問われているのか」「何を求めていくのか」といった問題の分析を行い、正しく問題の意図を捉えさせていく。

① 今年度の課題と授業改善策		
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題> ・基本的な計算(3位数÷1位数や四則演算)に誤答が多く見られる。 <指導上の課題> ・ICTを活用し、基礎基本がしっかりと身に付いたかをのみとり、児童に「できる・わかる」喜びをより多く感じ取れる授業の実践。	⇒ 計算問題にじっくりと取り組める時間を確保し、基本的な計算が身に付いているかを確認する。【毎週朝自習の時間を活用】また、ドリルを活用し、児童の読みに早く気づき、個別指導を行っていく。学びの指針を学期ごとに実施し、教師自身が自分の授業について分析する。【学期ごと】また学校課題研修と絡め、ICTを活用した授業を実践するとともに、授業改善の研修を行っていく。【年間を通して】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・視覚的・感覚的に問題を捉える傾向にあり、出題された問題を正しく読み取ることができない。また、自分の言葉で表現することにも課題がある。 <指導上の課題> ・児童の表現力を高めるための授業実践。	⇒ 出題された問題を全体で分析し、何を聞かれているのかを確認してから問題解決を行っていく。【毎授業】授業の振り返りを行い、自分の考えを整理し、順序だてて授業で理解したことを表現させていく。【毎授業】授業感想を発表させるとともに、その子の感想のどこがよいのかを伝え、よい表現の仕方について示唆していく。【毎授業】

⑤ 授業改善策の達成状況	
知識・技能	B 朝学習である計算タイムを始め、計算ドリルやドリルパークなどで計算を反復して行うことで基本的な計算力が身につく。R6年度さいたま市学習状況調査の算数「数と計算」では、同集団比較においてR5年度の結果を上回った。またすべての算数の授業において複数で指導しているが、「授業中、分からないことがあったとき、先生に聞くことができますか。」の質問項目で高学年においては13%の否定的意見があったので、児童の読みに早く気づくことにも、個別最適な学びの場の形成に努めていきたい。
思考・判断・表現	B オクリングを授業で活用し、課題に対して自分の意見を出すとともに、友達の見解についても自分と同じ意見や思いがなかった新しい考えのものをスタンプを送ることで、自己表現をさせることができた。問題の読み取りについてはまだ問題分析する力が弱く、継続して指導していく必要がある。ルーブリック評価を行うことで授業に主体的に取り組む姿勢が見られ、評価に対しての振り返りもできるようになってきた。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語・算数共に概ね習熟が図られているといえる結果であった。国語においては漢字の書き取りに若干課題はあるものの他の問題では正答率が高かった。算数においても正答率が高く、軒並み学習が定着しているといえる。その一方、質問項目「算数の勉強は好きだ」とどちらかと言えばあてはまらない・当てはまらないと回答した児童が3分の1いるので興味をもって学習に向かわせる手立てを講じることが必要であると感じる。
思考・判断・表現	国語においてはメモにどのように整理したのかについて説明する問題や資料の活用といった問題に誤答が多く見られ、出題された問題を正しく読み、何を聞かれているのかを自己分析していくことに課題が見られた。算数においては資料を基に考える問題やどちらが速く歩いたかを説明する問題で誤答が多く見られた。資料の読み取りと共にそれを活用する力の育成が必要である。

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	算数において学年による差が大きく現れた。基本的な計算においては概ね習熟が図れていると考えられるが、「変化と関係」領域においては、時速から分速の変換や数量が代わっても割合が変わらないといった問題で正答率が低く、知識を応用する力に課題が見られる。R6年度さいたま市学習状況調査「算数(数学)」の授業の内容はよく分かりますか。」の質問項目において肯定的な意見が95%と高く、児童においても理解は得られていることを実感しているため、知識を活用する力を高めることが必要だと感じる。
思考・判断・表現	算数では昨年度課題の見られた「グラフの読み取り」については多くの学年で改善が見られたが、複合グラフになるとそれぞれのグラフが何を表しているか読み取れず、誤答が目立った。また問題の読み取りが甘く、「間違えているものを選ぶ」といった問題では間違えているものではなく、正しいものを選択している解答が多く見られた。

③ 中間期報告		中間期見直し
評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B 朝の計算タイムをはじめ、振り返りの時間をもつなど計算に取り組み時間を確保したため基本的な計算能力については定着が図れてきている。ICTの活用については校内研修をはじめ、研究授業などを通して今後も効果的な活用を図ってきたい。	変更なし
思考・判断・表現	B 正しく問題を把握することにはまだまだ課題がある。落ち着いた問題を読み、何を聞いているのか問題分析を行ったうえで問題に取り組みさせることを継続して行ってきたい。また授業感想を書かせることで個の考えを把握することができてきたので今後も継続してきたい。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)